

福祉サービス第三者評価結果

事業所名 相模原市立麻溝保育園

発効：平成23年3月24日（平成26年3月23日まで有効）

社団法人神奈川県社会福祉士会

社団法人神奈川県社会福祉士会 第三者評価結果

事業所基本事項

フリガナ	サガミハラシリツアサミゾホイクエン
事業所名 (正式名称を記載)	相模原市立麻溝保育園
事業所住所 最寄駅	〒252-0336 相模原市南区当麻1357-1 JR相模線 原当麻駅下車 徒歩5分
事業所電話番号	042-778-3752
事業所FAX番号	042-778-6524
事業所代表者名	役職名 園長 氏名 大場正子
法人名及び 法人代表者名	法人名 相模原市 法人代表者氏名 相模原市長 加山俊夫
URL	
e-mail	
問合せ対応時間	8時30分～17時

事業所の概要1

開設年月日	昭和54年4月1日
定員数	120名 (平成22年12月現在130名在園)
都市計画法上の用途地域	第1種低層住居専用地域
建物構造	鉄骨鉄筋コンクリート造り 一部2階建て
面積	敷地面積(1,629.2)m ² 延床面積(703.56)m ²

事業所の概要2 (職員の概要)

総職員数	27名 (常勤以外を除く)
うち、次の職種に該当する職員数	園長 (常勤 1名) 保育士 (常勤 23名 : 常勤以外 16名) 調理員 (常勤 2名 : 常勤以外 5名) その他 (庁務 1名)

事業所の概要3 (受入・利用可能サービスの概要)

受入年齢	生後8週目～小学校就学未満	
延長保育の実施	有	備考:
休日保育の実施	無	備考:
一時保育の実施	有	備考:
障害児保育の実施	有	備考:
病後児保育の実施	無	備考:

保育の方針

- ・ 命の大切さを知り、意欲と思いやりのある子ども
- ・ 麻溝の身近な自然や地域の人との触れ合いの中で健やかな心と身体が育つ
- ・ 様々な活動を通して豊かな感性や自主性を養い創造性の芽生えを培う

社団法人神奈川県社会福祉士会 第三者評価結果

1. 総合コメント

総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善を要する点）

優れている点・独自に取り組んでいる点：

- 麻溝保育園の保育目標に、「①命の大切さを知り、意欲と思いやりのある子ども、②麻溝の身近な自然や地域の人との触れ合いの中で健やかな心と身体が育つ、③様々な活動を通して豊かな感性や自主性を養い創造性の芽生えを培う」を掲げ、保育に取り組んでいる。
- 豊かな自然環境に恵まれ、時には園庭でオニヤンマ、カブトムシ、ヒキガエルなどを観察したり、畑やプランターで草花や野菜を栽培したりして、自然と触れ合っている。周辺の公園や駅などに散歩して、地域の人とも挨拶を交わしている。
- 幼児のオープン保育や乳児の交流保育で異年齢の子どもと一緒に遊ぶ中で、年下の子どもに思いやりの心、年上の子どもに憧れの気持ちを培うことができるようにしている。養護学校や肢体不自由児通園施設（陽光園）、老人ホーム、地域の老人会、小中学生の体験学習など、いろいろな世代の人との交流を通し、お互いに認め合ったり昔の遊びを教えてもらったりしている。
- 保育室に、ままごと、ブロック、制作、絵本などのコーナーを設置し、子どもたちが好きな遊びを自分で選ぶことができるようにしている。廃材などの身近なもの他ダンボールやカラービニールなど様々な素材を用意し、子どもたちが自由に制作活動ができるように工夫し、子どもたちの作品は遊びの保障ができるよう取っておくスペースや展示できる場所をコーナーとして用意している。
- 幼児クラスの給食は、一定の時間内で子どもたちが自由に時間を決めてランチルームで摂っている。調理員が子どもの希望に応じて量を調節して盛り付け、子どもたちと一緒に食事をして様子を確認している。子どもたちが育てたジャガイモやトウモロコシを使って簡単なクッキングを行なう等で、食育の取り組みを行っている。
- 5歳児を中心にして当番活動を積極的に行っている。給食当番はテーブルを拭き、麦茶を入れ、給食の始まりの放送を入れたり、片付けをしたりしている。夕方は、雑巾当番やごみ当番が清掃の手伝いを行っている。
- 0～1歳児には連絡帳で、2歳児と幼児クラスには「お知らせボード」でその日の様子を保護者に知らせている。掲示板には写真が多く貼られ、保護者に子どもの様子がわかるようにしている。個別面談や保育参観、行事参加の機会も多く、送迎時にも連絡を取り合い、保護者とのコミュニケーションを大切にしている。
- 地域支援担当保育士を中心に様々な地域交流・子育て支援事業に取り組んでいる。一時保育や毎日の園庭開放、育児相談の受付、図書・紙芝居の貸し出し、毎月の誕生会への招待や「2歳児と遊ぼう」の開催、夕涼み会、運動会などで交流している。園外のこどもセンター、公民館での子育て支援事業に、園長や保育士が出向いて協力したり、隔月に園独自の「あさみぞ子育て通信」を発行し、地域の子育て支援の中核となっている。

評価領域ごとの特記事項

1	人権への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ○園児や保護者に対する適切な言葉遣いや態度については、「麻溝保育園マニュアル」を定め、職員会議で園長から職員へ、人権を尊重した子どもへの関わり及び保護者の立場に立った対応を行うことを周知している。 ○個人情報の保護、守秘義務については、「情報公開・個人情報保護相模原市」や「麻溝保育園個人情報マニュアル」に明文化し、個人情報の取り扱いに留意している。職員へは職員会議において個人情報の保護と守秘義務について周知するとともに、臨時・非常勤職員には採用時にマニュアルをもとに説明・周知している。 ○南こども家庭相談課や南生活支援課、南保健センター、南療育相談班、児童相談所などと連携をとり、子どもの虐待予防や早期発見に努めている。 ○実習生には実習開始数日前にオリエンテーションを行い、プライバシーの保護について説明している。体験学習、ボランティア、見学者については、「〇〇の皆さんへ」を渡して、プライバシーの保護について説明している。
---	--------	---

2	<p>利用者の意思・可能性を尊重した自立生活支援</p>	<p>○家庭との連絡・情報交換は、「麻溝保育園からのお知らせ」で手段・方法を定め、送迎時の口頭連絡とともに、0～1歳児は連絡帳で、2歳児以上は必要に応じて連絡ノートで情報交換を行っている。2歳児以上は「おおきな～れカード」で3ヶ月毎に情報交換を行い、各クラスのお知らせボードで当日の保育状況を伝えている。</p> <p>○個人面談を全園児最低年1回実施するとともに、必要に応じ随時実施している。懇談会はクラス毎に年2回実施し、保護者の意見・意向を聞いている。</p> <p>○コミュニティボックスの設置や行事の後に実施するアンケートなどで、保護者からの意見や意向の把握に努めている。受け付けた意見・意向は、速やかに副園長、園長に報告し、早急に対応している。</p>
3	<p>サービスマネジメントシステムの確立</p>	<p>○苦情への対応は、「相模原市立保育所及び療育センターにおける苦情解決実施要綱」に手順を明記し、苦情受付担当者や苦情解決責任者、第三者委員名を玄関脇や事務室、保育室など見やすいところに掲示して、保護者に周知している。受け付けた苦情は「苦情受付(報告)書」に記し、「保護者等からの意見受付時の対応手順」に沿って、早急に対応している。</p> <p>○「相模原市立保育園園児健康管理マニュアル」で、室内の環境整備の方法を定め、「安全衛生チェックリスト」で危険物などの安全点検を行っている。</p> <p>○園児が触れるおもちゃ、タオル、布団、砂場などの除菌・消毒、遊具の安全点検については、マニュアルに管理方法を定め、点検実行記録をつけて衛生面・安全面の管理を行っている。</p> <p>○「感染症対応マニュアル」を常備し、園児健康管理担当者が園内で流行している感染症の情報提供や季節に流行する感染症の資料を配布している。インフルエンザなどの情報が載った保健ニュースを廊下の掲示板に掲示している。</p> <p>○防火・防災・防犯対策については、「麻溝保育園消防計画」を作成し、園長から職員会議でマニュアルの再確認をするとともに、避難訓練年間予定表及び役割分担などを確認している。外部への通報手順書を電話機に付けている。</p>
4	<p>地域との交流・連携</p>	<p>○豊かな自然環境に恵まれ、時には園庭でオニヤンマ、カブトムシ、ヒキガエルなどを観察したり、畑やプランターで草花や野菜を栽培したりして、自然と触れ合っている。周辺の公園や駅などに散歩して、地域の人とも挨拶を交わしている。</p> <p>○地域の子育て支援については、「麻溝保育園地域交流年間計画」を作成し、園庭開放や誕生会、「園行事にきてね」、「2歳児とあそぼう」など園児と地域の親子が交流できる機会を持ったり、一時保育・育児相談などを行っている。地域の子どもセンターで「ぼかぼか広場」、「親子わくわく広場」、公民館で「みんなの広場」、「3園合同ほのぼの広場」などを行い、遊びの紹介や育児講座などを行っている。地域の親子に向け、2ヶ月に1回「あさみぞ子育て通信」を発行したり、4ヶ月に1回社協などと協力し、「あさみぞ地区子育て情報紙」を発行して、子育てに関する情報を提供している。</p> <p>○幼稚園や養護学校、老人ホーム、地域の老人会、肢体不自由児通園施設等と交流をもち、様々な世代の人と関わる楽しさを味わえる機会を多く作っている。</p>

5	運営上の透明性の確保と継続性	<ul style="list-style-type: none">○麻溝保育園の自己評価票を作成し、年2回、自己評価を実施して改善につなげている。日々の保育については、日誌や乳児・幼児の話し合い会議で検討している。年度末に職員会議で全体を検討し、次年度に反映させている。○保育目標は、保護者や地域からの理解が得られるよう、園内へ掲示したり、園だより、麻溝保育園からのお知らせで周知している。○保護者に保育園での子どもたちの様子を見てもらう機会として、保育参観を年2回実施し、保育に関しての感想を聞いている。公開保育や誕生会への保護者の参加も行っている。
6	職員の資質向上促進	<ul style="list-style-type: none">○「麻溝保育園マニュアル」に、相模原市立保育園保育目標や麻溝保育園保育目標を明記している。職員はグループに分れ、「麻溝保育園マニュアル」の読み合わせを行っている。○研修計画は「保育所職員研修計画」に基づき、役職・勤続年数・担当などに配慮した一貫性を持った計画が保育課で作成され実施されている。園内研修は自主研修係が中心になり、職員全体で取り組んでいる。○外部研修を受講した職員は、職員会議で研修報告を行うとともに、研修報告書を回覧している。研修報告書はファイルし、自由に閲覧できるように事務室に置いている。

2. 評価項目に基づく評価の結果

大項目 1 保育環境の整備

評価機関が定めた評価項目に添って、調査を行った結果です

大項目 1 全体 （調査確認事項全 80 事項） を通してのサービスの達成状況	100 %
---	--------------

大項目 1 の内容(概要)

1	人権の尊重	子どもや保護者に対する態度や言葉遣い 出生や国籍、性差などによる差別の禁止 子どもの虐待予防や早期発見のための地域の関係機関・団体との連携
2	プライバシー確保	プライバシー確保への配慮 個人情報保護の体制整備
3	家庭と保育園との信頼関係の確立	家庭との連絡、情報交換の体制 家庭の意向・希望の把握
4	苦情解決システム	苦情解決の体制整備
5	環境整備	温度や湿度等の管理 洗剤等の危険物の管理 おもちゃ、遊具等の管理
6	健康管理(感染症対策・救急救命を含む)	体調不良児、けがへの対応 感染症への対応 救急事態発生時の医療機関・家族等との連携
7	危機管理(防災・防犯)	火災や震災等の対応 日常の防災・防犯体制の整備
8	地域の子育て支援	地域内の子育てニーズの把握と支援
9	自己評価と情報開示	自己点検・改善活動の実施 地域への情報提供、情報開示 見学や保育参観の機会の設定
10	職員研修	職員研修の実施 実習生の受入れ、指導

大項目2 保育内容の充実

事業所から自己申告された内容について、事実確認を行った結果です

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>子どもと保育士とのかかわりにおいて、子どもの情緒の安定をはかることや、順調な発育・発達を促すためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①一人一人の生理的欲求や気持ちを受けとめ、発育・発達・個人差にあわせた対応をしている。</p> <p>②個々の発達状況・配慮事項を記録に残したり、職員会議・給食会議や乳幼児の話し合いなどで、職員が共通理解を持ち保育にあたっている。</p> <p>③乳児のコーナー遊び、幼児のオープン保育などで子どもの興味・発達に応じた環境を作っている。</p>	<p>①子どもの発育・発達・個人差にあわせた対応については、子ども一人ひとりの発達に合わせた指導計画を作るとともに、体調不良の子どもは室内で静かに過ごさせたり、不安定な子どもには優しく声かけしスキンシップをとるなど、臨機応変に対応していることを、「指導計画」や「保育日誌」、訪問調査時の子どもたちの様子観察で確認した。</p> <p>②保育士の共通理解については、毎月クラスの状況を記録し職員会議で共有していること、乳児・幼児の話し合いや給食会議などで保育士等が共通理解を持ち保育にあたっていることを、「職員会議録」や「乳児・幼児の話し合い記録」、「申し送り事項」で確認した。</p> <p>③子どもの興味・発達に応じた環境設定については、部屋を棚などで区切って、ままごとコーナーや制作コーナー、ブロックコーナー、絵本コーナーなどを設置し、発達に応じた環境を設定していることを、「指導計画」や「保育日誌」、「乳児・幼児の話し合い記録」、保育室内のコーナーの設置状況で確認した。</p>
<p>子ども同士のかかわりにおいて、個の違いを認めあうことや他者と自分を大切にすることを育てるためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①相手の思いを認め、共感し、自分が大切にされているということを感じられるような関わりをしている。</p> <p>②養護学校、陽光園、幼稚園など様々な施設との交流を持ち、個の違いを認め合ったり、相手に思いやりの気持ちを持つように配慮している。</p> <p>③異年齢と関わって遊ぶ中で、互いの個性を認め合ったり尊重し合うために関わりかたを伝えている。</p>	<p>①自分が大切にされていると感じられるような関わりについては、年下の子どもには優しく声かけし食事を介助したり、子ども同士で遊びの順番を決めたりできるよう支援していることを、「指導計画」や「保育日誌」で確認した。</p> <p>②個の違いを認め合ったり、相手に思いやりの気持ちを持つような関わりについては、養護学校や肢体不自由児通園施設などと交流することで、思いやりの気持ちが育つようにしていることを、「保育課程」や「保育日誌」、交流の写真で確認した。</p> <p>③異年齢の関わりについては、園庭遊びやテラス遊びなどで、異年齢児と一緒に遊ぶ中で、年下の子どもにいたわりの気持ちを持つたり、お互いに認め合って楽しめるように保育士が支援していることを、「指導計画」や「保育日誌」で確認した。</p>

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>子どもと社会とのかかわりにおいて、人に役立つことの喜びを感じたり、人と関わることの楽しさを味わうことができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①年齢に応じた手伝いや当番活動などを通して人に役立つ喜び、ほめられる喜びを感じられるようにしている。</p> <p>②地域の親子、幼稚園、養護学校、老人ホーム、地域の老人会、陽光園などと交流をもち、色々な世代の人と関わる楽しさを味わえる機会を多く持っている。</p> <p>③異年齢の関わりがもてるように、乳児交流保育・幼児オープン保育を行っている。</p>	<p>①手伝いや当番活動については、園庭で花の植え替えなどの手伝いをしたり、給食当番や雑巾・ごみ当番の活動をしていること、人に役立つ喜び、ほめられる喜びを感じられるようにしていることを、「指導計画」や「保育日誌」、訪問調査時の当番の様子観察で確認した。</p> <p>②地域との交流については、地域の幼稚園や老人ホーム、肢体不自由児通園施設など様々な方と交流し、楽しく遊んでいることを、「保育日誌」や写真で確認した。</p> <p>③乳児交流保育・幼児オープン保育については、年間を通して交流保育やオープン保育を行っていること、人数が少ない時には一緒に過ごしたりして、異年齢の関わりの中で思いやりの気持ちを育むようにしていることを、「オープン保育年間計画」や「保育日誌」、写真、訪問調査時の子どもたちの様子観察で確認した。</p>
<p>生活や遊びなどを通して、言葉のやりとりを楽しめるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①日常生活に必要な挨拶が身につくように、園内外で職員も一緒に挨拶を交わしている。</p> <p>②日常の会話や絵本を通して様々な言葉の楽しさ(繰り返しなど)に気づいたりしながら、話したいという気持ちを大切に言葉のやりとりができるようにしている。</p> <p>③ごっこ遊び・おままごとなど、言葉のやりとりを楽しめるような、年齢に合わせたコーナーの設置を行っている。</p>	<p>①日常生活の中で挨拶が身につくような取り組みについては、日常生活の中での様々な挨拶を知らせ、職員が率先して挨拶をしたりしていること、できた子どもをほめたりする中で、挨拶が身に付くようにしていることを、「指導計画」や「保育日誌」、訪問調査時の子どもたちの様子観察で確認した。</p> <p>②言葉のやりとりができるような関わりについては、保育士が優しく話しかけたり、絵本の読み聞かせやエプロンシアターを演じたりすることで、子ども同士が会話や言葉のやりとりを楽しんでいることを、「指導計画」や「保育日誌」、写真、訪問調査時の子どもたちの様子観察で確認した。</p> <p>③コーナーの設置については、保育室に設置したままごとコーナーやブロックコーナーなどで、ごっこ遊びやままごとをして、乳児、幼児とも言葉のやりとりを楽しんでいることを、「保育日誌」や「幼児話し合い記録」、保育室のコーナーの設置状況で確認した。</p>

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>生活や遊びなどを通して、話すこと・聞くことが楽しめることや言葉の感覚が豊かになること、自分の伝えたいことが相手に伝わる喜びを味わうことができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①月2回を目安に年長児対象に「あいの会」(ボランティアによるお話会)を実施、また各クラスで様々な機会を作り、絵本・紙芝居の読み聞かせをしている。</p> <p>②子どもの言葉をよく聞いたり、うまく言葉で伝えられない場合には保育士が仲立ちをしたり気持ちを代弁することで、伝わる喜びを味わえるよう援助している。</p> <p>③ごっこ遊びで言葉のやりとりを楽しんだり、集団で一緒に考えて意見を出し合ったり、経験したことを伝え合う機会を持っている。</p>	<p>①「あいの会」の訪問や絵本・紙芝居の読み聞かせについては、日常的に各クラスで絵本や紙芝居の読み聞かせをしていること、「あいの会」による話し会を通して、話のおもしろさや言葉の繰り返し・押韻を楽しんでいることを、「保育日誌」や「あいの会年間計画」で確認した。</p> <p>②保育士が気持ちを代弁する関わりについては、保育士が場面に応じて必要な言葉を子どもに伝えたり、気持ちを代弁したりする中で、子ども同士も思いを表現できるようになっていることを、「指導計画」や「保育日誌」で確認した。</p> <p>③ごっこ遊びの取り組みについては、物語のイメージを共有して、ごっこ遊びをしたりしていること、野菜の栽培を何にするか、夕涼み会のおみこしをどう作るか等、子どもたちが話し合って決めていることを、「指導計画」や「保育日誌」で確認した。</p>
<p>生活や遊びなどを通して、楽しんで表現することができるようにすることや表現したい気持ちを育むためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①歌・リズム遊び・楽器遊びなどを通し、一人ひとりの興味・自発性を大切にしながら表現する楽しさが味わえるようにしている。</p> <p>②ごっこ遊びや年齢・発達に合わせた製作活動などを通して、いろいろな素材・道具を選定し、自由表現が意欲的に出来るような環境設定をしている。</p> <p>③作ったことへの喜び、表現できたことへの喜びが味わえるような作品を大切に扱い、工夫して飾ったりしている。</p>	<p>①歌・リズム遊び・楽器遊びについては、歌を歌ったり、手遊びをしたり、音楽に合わせて身体を動かして遊んだり、オペレッタを演じたりして、子どもたちが表現することを楽しんでいることを、「指導計画」や写真で確認した。</p> <p>②自由表現が意欲的にできるような環境設定については、年齢や発達に合わせた制作活動ができるよう、廃材などの身近なもの以外にもダンボールやカラービニールなどの様々な素材を用意していること、子どもたちは意欲的に制作活動を行い、ごっこ遊びに発展したりしていることを、「保育課程」や「保育日誌」、「おしらせボード」、保育室内の掲示物や作品で確認した。</p> <p>③子どもたちの作品の展示については、ブロックや折り紙などで作った作品を作品コーナーに飾っていること、廃材を使って冠を作り、ファッションショーをしたりして楽しんでいることを、「指導計画」や「保育日誌」、「おしらせボード」、保育室内の掲示物や作品で確認した。</p>

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>生活や遊びなどを通して、自発的に表現する意欲を育むことやみんなで一緒に表現する喜びを味わえるようにすること、創造的に表現することができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①ままごとコーナー、絵本コーナー、ブロックコーナー、製作コーナーなど常置して子どもたちが自分で選択していろいろな遊びを楽しめるようにしている。</p> <p>②夕涼み会のおみこし、お店やさんごっこの品物作りなどを通して、みんなで作ることの喜び・楽しさ・達成感を味わえるようにしている。</p> <p>③運動会やお楽しみ会で、皆で一つの作品を作り上げている。また、発表することで共感してもらったり認めてもらい、表現する意欲を育んでいる。</p>	<p>①コーナーの設置については、ままごと、絵本、ブロックなどのコーナーを設置していること、子どもたちが自分で選択して、好きな遊びを楽しめるようにしていることを、「保育室環境図」や「お知らせボード」、写真、保育室内のコーナーの設置状況で確認した。</p> <p>②皆で作ることの喜びなどを味わえるような関わりについては、子どもたちが一緒になって、夕涼み会のお神輿作りをしたり、お店屋さんごっこの品物作りを行っていること、子どもたちは意欲的に取り組んでいることを、「指導計画」や「保育日誌」、写真で確認した。</p> <p>③表現する意欲を育むような関わりについては、子どもたちが協力して、運動会やお楽しみ会の出し物の練習をしていること、発表を見てもらい、喜びを共有できるようにしていることを、「指導計画」や「園だより」、「保育日誌」で確認した。</p>
<p>生活や遊びなどを通して、聞く・見るなど感覚の働きを豊かにすることや身体を動かす楽しさを味わうこと、身近なものに対する興味や関心を引き出すためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①日々の保育の中で絵本・紙芝居などで豊かなイメージが育つようにしている。</p> <p>②興味・発達に見合った遊具・教材・体育用具などを設定したり、リズム遊び・体操・運動遊びなどを行っている。</p> <p>③水遊び、色水遊び、泥だんご遊び、雪遊びなどの季節ならではの遊びや散歩などを計画的に実施している。</p>	<p>①絵本や紙芝居の取り組みについては、絵本や紙芝居の読み聞かせなどは、子どもたちの模倣遊びやごっこ遊びに発展していること、物を大切にすることや食べ物の栄養等に気付いたりすることにもつながっていることを、「指導計画」や「保育日誌」、写真で確認した。</p> <p>②リズム遊びや体操、運動遊びの取り組みについては、保育室内に体育遊びコーナーを作り、ダンス・トランポリン・マット山などを用意していること、子どもの様子に合わせて、身体を動かして楽しめるよう、様々な工夫をしていることを、「指導計画」や「保育日誌」、写真、訪問調査時の子どもたちの様子観察で確認した。</p> <p>③季節の遊びや散歩の取り組みについては、夏の泥だんご遊び、色水遊び、冬の雪遊び、氷遊びなどを楽しんでいること、散歩を多く取り入れ、園周辺の自然を見たり、虫や草花などに触れる機会を多く持っていることを、「指導計画」や「保育日誌」、写真で確認した。</p>

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>生活や遊びなどを通して、身近な様々なものに対する探索意欲を満足させることや社会や自然の事象や、動植物への興味や関心をもてるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①様々な花や、野菜の栽培などを通して自然に興味・関心が持てるようにしたり、小動物や虫などの世話や観察をし、ふれあう機会を設けている。 ②泥んこ遊びやプール遊び、自然物などを使い、季節を感じられる遊びを取り入れている。 ③絵本・紙芝居・園外保育・行事などを通して、様々な公共施設や交通機関、職業などに興味・関心が持てるようにしている。</p>	<p>①花や野菜の栽培、小動物の飼育については、アサガオ、アネモネ、ヘチマ、カイワレダイコン、カブ、ブロッコリーなどを栽培していること、観察したり食材にしていること、園庭や散歩の途中で虫や小動物に触れ合っていることを、「指導計画」や「保育日誌」、写真、保育室の様子観察で確認した。 ②季節を感じられるような遊びについては、桜の花びらで遊んだり、泥んこ遊びから遊びが発展したりしていること、子どもの発達状況に応じて、たらいやプールで水遊びをしていることを、「指導計画」や「園だより」、「保育日誌」、写真、訪問調査時の子どもたちの泥んこ遊びの様子観察で確認した。 ③社会的な興味を育む取り組みについては、公共施設や交通機関、職業等については、紙芝居や絵本で知らせ、実際に切符を買って交通機関を利用したりしていること、派出所や宇宙科学研究所などを訪れたりしていることを、「指導計画」や「保育日誌」、写真で確認した。</p>
<p>自分から食べようとする意欲を育んだり、排泄をしようとする意欲を育むためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①乳児はランチコーナー、幼児はランチルームを設定し、落ち着いて楽しく食べられる環境を作る中で、個々のペースや生活リズムに合わせた食事をしている。 ②排泄は個々のペースをよく把握し、その子のリズムに合わせた声かけをするなどして、成功した時にはほめたり喜びを共感している。 ③絵本・紙芝居などの教材を活用し、楽しみながら食事や排泄に興味・関心が持てるようにしている。</p>	<p>①ランチコーナーやランチルームについては、乳児はランチコーナー、幼児はランチルームを設定していること、乳児は保育士が支援し、幼児は給食当番をしたり、食べる時間を自分で決め、一人ひとりのペースで食事をしていることを、「指導計画」や「保育日誌」、「園だより」、訪問調査時の給食の様子観察で確認した。 ②排泄の取り組みについては、子ども一人ひとりの排泄のリズムを把握し、声かけをしたり、ほめたりして、子どもの意欲を育んでいることを、「指導計画」や「保育日誌」で確認した。 ③楽しみながら食事や排泄に興味を持てるような関わりについては、絵本や紙芝居などを使用して、子どもたちが進んで関心を持ったり、マナーを身につけられるように取り組んでいることを、「指導計画」や「保育日誌」、訪問調査時の給食の様子観察で確認した。</p>

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>身の回りのことを自分でしようとする意欲を育むことや基本的な生活習慣を身につけること、食事や休息の大切さを理解することができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①一人ひとりの発達・発育状況を把握し、職員間で連携をとり共通理解を持って意欲を大切にする声かけや援助を行う。できた時はほめたりして達成感を味わえるようにしている。</p> <p>②分かりやすく話をしたり絵本・紙芝居を見せたりする中で、自分の体に興味・関心を持ち、食事・休息の大切さに気づいていけるようにする。</p> <p>③家庭と連携をとりながら生活リズムを整え、一人ひとりの発達に応じた環境設定を工夫することで意欲を育んでいる。</p>	<p>①子どもが達成感を味わえるような関わりについては、身の回りのことや排泄の自立について、一人ひとりの状況に合わせ、保育士が話し合い共通理解をして、子どもの意欲を引き出すようにしていることを、「指導計画」や「保育日誌」、「ケースカンファレンスの記録」で確認した。</p> <p>②食事や休息の大切さについては、身体を休めることや水分補給の大切さを、プール遊びの後に説明したりしていること、絵本や紙芝居を使って、嫌いなものも食べてみたいと思うようになる取り組みを行っていることを、「指導計画」や「保育日誌」、写真で確認した。</p> <p>③家庭との連携については、朝食を食べてから登園すること、着脱しやすい衣類を用意することなど、保護者と連携を取りながら保育にあたっていることを、「指導計画」や「保育日誌」で確認した。</p>

大項目 3 保育園の特徴

事業所から自己申告された内容について、事実確認を行った結果です

項目	事業所による特徴的取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>子どもの豊かな心と身体をはぐむための特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>① 幼児オープン保育・乳児交流保育・異年齢交流をする中で、思いやり・あこがれの気持ちを育むことができるようにしている。</p> <p>② 園庭遊び、散歩、室内での体育あそびなど体を動かす遊びを取り入れたり、身近な自然や生き物にふれ興味を持てるようにしている。</p> <p>③ 養護学校、老人ホーム、幼稚園、陽光園、地域の親子などと交流したり、実習生や体験学習の学生などと触れ合ったりする中で、色々な世代と関わり豊かな心を育てる配慮をしている。</p>	<p>① 異年齢保育については、異年齢との交流の中で、年上の子は思いやりの気持ち、年下の子は憧れの気持ちを育むように取り組んでいることを、「オープン保育計画」や「保育日誌」、写真、訪問調査時の子どもたちの様子観察で確認した。</p> <p>② 自然に興味を持てるような取り組みについては、園庭でカブトムシやオニヤンマが見つかる自然環境の中で、生き物に興味を持ち、命を大切にすることを学んでいることを、「保育課程」や「指導計画」、「園だより」、「保育日誌」で確認した。</p> <p>③ いろいろな世代との交流については、近隣の高齢者との交流の中で、昔の遊びを教えてもらったり、合奏を披露したりする他、実習生や体験学習の受け入れを行い、いろいろな年齢の人と交流することによって、豊かな心を育むようにしていることを、「園だより」や「保育日誌」、写真で確認した。</p>
<p>保育環境に特別な配慮を必要とする子ども(長時間保育、障害児保育、乳児保育、外国籍園児)の保育に関しての特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>① 長時間保育は子どもの情緒面に配慮しながらゆったりとした家庭的な雰囲気の中で保育をするように努めている。</p> <p>② 0歳児保育では、保育室内で快適かつ安心して過ごせるよう衛生面に充分気をつけ、個々のペースを大切にしながら、家庭との連携をこまめにとるようにしている。</p> <p>③ 障害児保育にあたり、職員会議や乳幼児の話し合いなどで発達や様子、関わり方の配慮など伝え合い、共通理解をもって行っている。また、巡回指導などで専門機関に相談やアドバイスを受けることで、より適切な援助ができるよう努めている。</p>	<p>① 長時間保育については、延長保育はゆったりとした環境の中で保育を行っていること、子どもたちも兄弟のように年上の子どもが年下の子どもをいたわっていることを、「保育課程」や「保育日誌」、写真で確認した。</p> <p>② 0歳児保育については、安全で衛生的な環境を整えることに留意していること、毎日チェックリストで環境の点検を行っていること、子ども一人ひとりの発達やその日の状況に合わせて、保護者と連絡を取り合って保育していることを、「指導計画」や「保育日誌」、「安全衛生チェック表」、保育室の様子観察で確認した。</p> <p>③ 障害児保育については、当該園児の発達や様子を会議や話し合いで伝え合い、共通理解を持って支援していること、市とも連携し、公立保育園の使命感を持って対応していることを、「職員会議録」や「幼児話し合い記録」、障害児保育の「巡回訪問報告書」で確認した。</p>

項目	事業所による特徴的取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>健康管理に特別な配慮を必要とする子ども(アレルギー疾患をもつ園児、乳児保育、病後時保育など)の保育に関する特徴的な取り組み(アレルギー食対応、個別食、離乳食など)について説明してください</p>	<p>①食物アレルギー対応マニュアルに従ってアレルギー食を診断書、指示書、保護者のチェックした献立表に基づいて提供する。その際には調理員、保育士で再確認をし、個人専用トレーを利用している。</p> <p>②離乳食はそれぞれの子どもの発達と体調に合わせ、担当保育士・調理員・保育士が連携を取り合い進めている。また、家庭との連携をはかるため、よりわかりやすいように写真や食材チェック表を活用したり、実際の食事を見る機会を設けている。</p> <p>③体質的に健康管理に配慮が必要な児は、視診・睡眠チェック・検温などを記録し、体調管理をしている。また、体調不良の子はその日の体調に応じた食事を提供している。</p>	<p>①食物アレルギーについては、対応マニュアルに従っていること、主治医の指示書や保護者の除去食申請書に基づいて提供していること、全職員が共通理解を持って対応していることを、「保育マニュアル」や「除去食申請書」、「主治医の指示書」、「献立チェック表」で確認した。</p> <p>②離乳食の取り組みについては、離乳食は保護者と連絡を取り合い、保護者の試食の機会も設け、連携して取り組んでいることを、「保育日誌」や「給食会議録」、「離乳食食材表」、「給食試食会アンケート」で確認した。</p> <p>③健康管理に配慮が必要な子どもや体調不良の子どもに対しては、病状に応じた対応食やおかゆなどで対応し、保護者の希望に添えるようにしていることを、「保育日誌」や「個人記録ノート」で確認した。</p>
<p>食に関する特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>①野菜の栽培、収穫、給食の野菜の下ごしらえなどを通して、食材に親しみが持てるように配慮している。</p> <p>②調理員が直接子どもに配膳をしながら食事状況を把握している。また、会話を通して食事への関心を高めたり、主体的に食事が楽しく食べられる環境を作っている。</p> <p>③当番活動を通して、食事の準備や片付けを経験している。また、献立に子どもの意見を反映させてセレクトおやつ、バイキング等を取り入れている。</p>	<p>①食材に親しみが持てるような取り組みについては、トウモロコシやジャガイモなどを栽培し、ポップコーンやカレーライスに使っていること、子どもたちは手伝いを行い、食材に親しみが持てるようにしていることを、「園だより」や「保育日誌」、「食育ボード」、写真で確認した。</p> <p>②食育の取り組みについては、調理員がランチルームで配膳をしたり、一緒に食事をして質問に答えたりしていること、楽しく食べられる環境を作っていることを、「園だより」や「保育日誌」、訪問調査時の給食の様子観察で確認した。</p> <p>③当番活動の取り組みについては、給食当番は5歳児を中心に行っていること、毎月複数回のセレクトおやつやバイキングの日を設けていることを、「食育年間計画」や「給食会議録」、「保育日誌」、訪問調査時の当番活動の様子観察で確認した。</p>

項目	事業所による特徴的取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>家庭とのコミュニケーションに関する特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>①連絡帳、大きな～れカードで家庭とやりとりして成長発達に対して連携をとったり、おしらせボード(写真の掲載も含む)、園だより、クラスだよりなどで園の様子を伝え、コミュニケーションをとっている。</p> <p>②送迎時、口頭で園での生活や体調などを伝えている。また、感染症などが発生した場合は状況や情報を園内の掲示板に掲示している。</p> <p>③公開保育・懇談会・個人面談・アンケートなどの実施により、家庭とのコミュニケーションを取っている。</p>	<p>①家庭とのコミュニケーションについては、0、1歳児は「連絡帳」で日々のやりとりをしていること、2歳児以上は毎月の身体計測などを記した「おおきく～れカード」で家庭とのやりとりをしていること、毎日、お知らせボードで2歳児や幼児クラスの様子を伝えていることを、「連絡帳」や「おおきく～れカード」で確認した。</p> <p>②家庭への連絡の方法については、登園時の視診や家庭からの連絡を記録し、降園時に園での様子を保護者に伝えていること、感染症の発生状況などの情報は、園内に掲示し、健康について家庭と連絡を取り合っていることを、「保育日誌」や「当番ノート」で確認した。</p> <p>③家庭とのコミュニケーションについては、保護者が参加する行事では、アンケートを取り記録を報告していること、家庭とのコミュニケーションを図っていることを、「感想カード」や「懇談会記録」、「懇談会だより」、「個人面談記録」、「アンケート結果報告」で確認した。</p>
<p>地域の子育て支援に関する特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>①園庭開放、誕生会、「園行事にきてね」、「2歳児とあそぼう」など園児と地域の親子が交流できる機会を持ったり、一時保育・育児相談などを行っている。</p> <p>②子どもセンターで「ぼかぼか広場」、「親子わくわく広場」、公民館で「みんなの広場」、「3園合同ほのぼの広場」などを行い、遊びの紹介や育児講座などを行っている。</p> <p>③地域の親子に向け、2ヶ月に1回「あさみぞ子育て通信」を発行したり、4ヶ月に1回社協等と協力し、「あさみぞ地区子育て情報紙」を発行して、子育てに関する情報を提供している。</p>	<p>①地域の子育て支援については、園の行事に地域の親子を招いたり、一時保育や育児相談を実施していることを、「子育て広場事業月別利用状況内訳書」や「地域子育て事業等報告書」、「一時保育事業実施状況調書」、「育児相談カード」で確認した。</p> <p>②遊びの紹介や育児講座については、地域のこどもセンターで、地域の子育て支援として、遊びの紹介や親子遊びを行い、公民館では親子遊びや育児講座の開催を行っていることを、「みんなの広場」や「ぼかぼか広場」、「わくわく広場」、「3園合同ほのぼの広場」、日誌や写真で確認した。</p> <p>③子育てに関する情報提供については、地域の子育て親子に向けて、隔月に「あさみぞ子育て通信」を発行し、社協・幼稚園・こどもセンター・公民館と協力して、年3回子育て情報紙を発行していることを、「あさみぞ子育て通信」や「あさみぞ地区子育て情報紙」で確認した。</p>